

OSC2008_Fukuoka

OSSをライセンス的に 正しく使う/
プロプラだけの製品とするための
11のチェックポイント
～ そのご紹介 ～

2008年12月13日(土)

NEC OSSプラットフォーム開発本部
姉崎



私のOSS関連IPへの関わり

- 日本Linux協会(JLA)理事。Linux商標調査WG代表として調査を実施
- NECグループ内部のOSS/Linux IP情報の問い合わせ対応に従事
- 独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)の非常勤研究員を兼務し
OSS BOOKS「オープンソースで構築! ITシステム導入 虎の巻」を企画・製作
～OSS素人向けですが、OSSライセンスに関する解説あり
- OSSライセンス・コンプライアンスのコンサルティング・サービスを開始



[日本Linux協会 | 日本Linux協会ワーキンググループ | Linux®商標調査]

Linux®商標調査

目的

日本におけるLinux商標の現状を調査・把握し、これを参照しやすくするまとめ、特許法律事務
で自由に安心して使用できること。

Linux商標の登録・出願状況

2007年3月23日現在、独立行政法人 工業所有権情報・研修館 特許電子図書館「初心者向
X0208で入れる必要がありますを検索すると、「Linux」単独の文字列での登録・出願は下記の

商標出願・登録 番号	出願日	出願人	区分
1. 登録4333699	1998.12.10	←(株)内田洋行	18
	2000.1.18	→登録公報発行日	
2. 登録4346339	1999.3.12	←松本 東喜雄、上原 潤	16

監修

創英国際特許法律事務所 弁理士 工藤 莞司

活動期間

1999-06-04より

連絡先

Linux商標調査へのご連絡は JLA@linux.or.jpまでお願い致します。

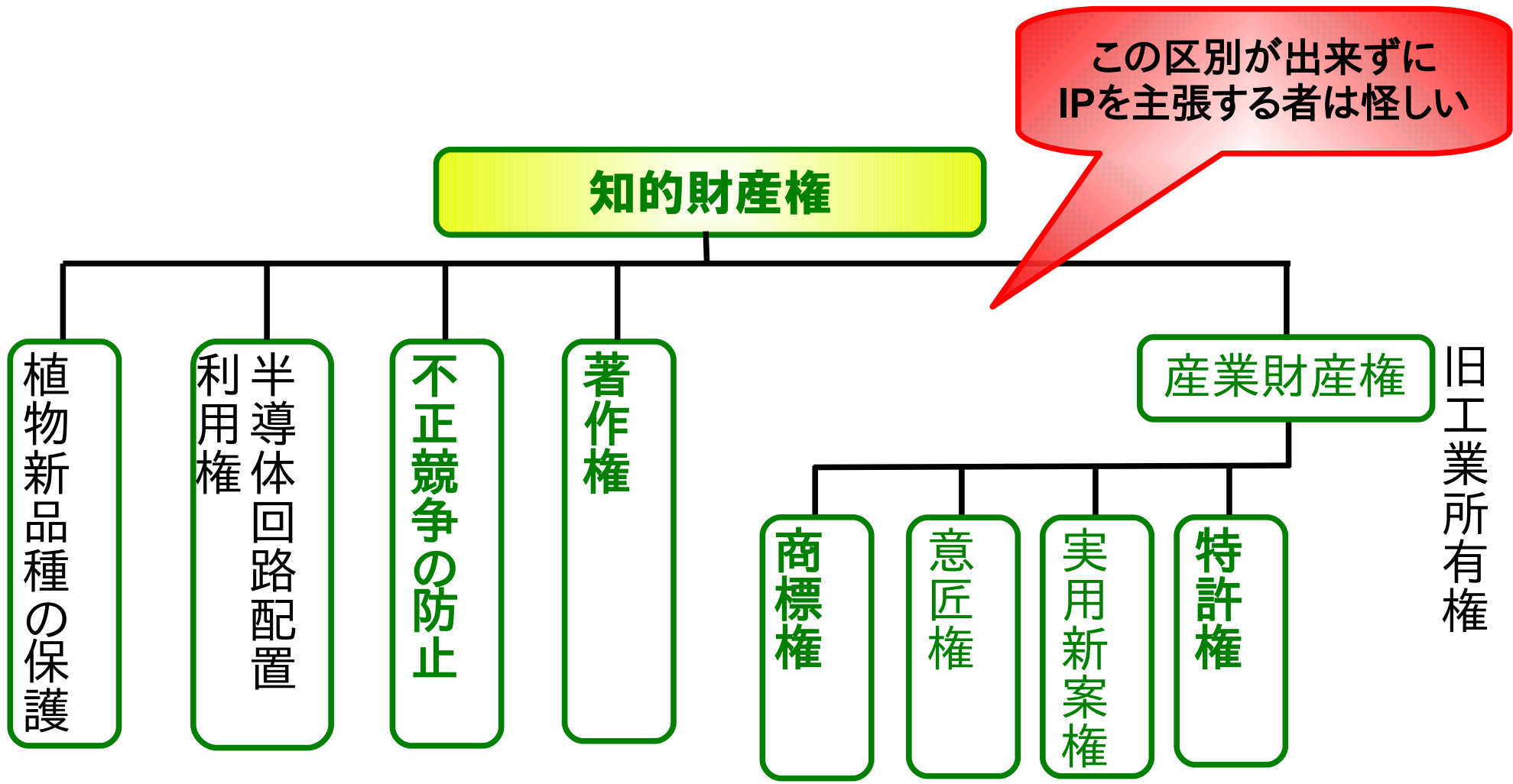
メンバーリスト

代表:	姉崎 章博(NEC)
メンバー:	渡辺 真次(ソフトバンクパブリッシング) 樋口 貴章(サン・マイクロシステムズ)

IP(知的財産)とは

日本国では

- IP「知的財産」: Intellectual Propertyの略
- 工業所有権や著作権に加え、現在では、さらに多くの対象を含めて、広い意味で使われています。



プログラムは、著作権法で保護される著作物

- コンピュータ・プログラムは、著作権法で保護される著作物の一つです。
 - 著作権法 第10条 (著作物の例示)に挙げられています。
 - 「著作物」としては、他に、「小説、論文、脚本、講演」「音楽」「絵画」「映画」「写真」などがあります。
 - 著作権に含まれる権利の種類 (第21条～第28条)
 - 複製権、公衆送信権、頒布権、譲渡権、翻訳権等、**二次的著作物の利用に関する原作者の権利**など
- ソフトウェアの**ライセンス**は、「著作物の**利用**の許諾」(著作権法 第63条)
 - その許諾に係わる利用方法及び条件(同条2項)が**ライセンス条文**

※日本の著作権法に基づいて説明しています。

以下、特別に断らない限り、日本国での説明です。

当然のことながらオープンソースソフトウェア(OSS)は、

- 「単に、自由に使えるもの」ではありません。
 - 著作権が無いため(あるいは失効した)許諾不要なパブリックドメインソフトウェア(PDS)ではありません。
- OSSライセンスと総称される、ライセンスがあります。

自分の開発物件として納品してはいけません。

ソース非開示で、最近の訴訟事例

従来、MySQLなど企業製OSSでしか、OSSライセンス違反の訴訟はなかったが、昨年から Software Freedom Law Center (SFLC) がOSS開発者の代理人となって提訴

- 2007年9月 デジタル家電メーカーを提訴

<http://opentechpress.jp/opensource/article.pl?sid=07/09/26/0051222>

- 2007年11月 無線機器メーカー2社を提訴

<http://opentechpress.jp/opensource/article.pl?sid=07/11/27/0136228>

- 2007年12月 無線ルータでキャリアを提訴

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20071210/289099/>

- 2008年7月 ネットワーク機器ベンダー を提訴

<http://www.heise-online.co.uk/open/Extreme-Networks-accused-of-having-violated-GPL-open-source-license--/news/1>

✚ 機器組込ソフトだからと言って油断してはいけない。

✚ (改変していなくても) GPLのBusyBox, Linuxのソースは開示が必要

守るべきOSSライセンス条件の概要 (ソース開示の観点のみ)

- ① ソースの開示 (OSS自身 + GPL利用プログラム)
- ② LGPLを静的リンクしたプログラムのリバースエンジニアリングの許可
- ③ ドキュメントに必要な記載 (BSDタイプのバイナリ配布のみの場合)

OSS ライ セン ス	BSDタイプ	バイナリ形式のみの配布可	ソース開示しないならば、著作権表示、ライセンス文、免責条項などの記載が必要③
	MPLタイプ	バイナリ形式のみの配布不可 ソース開示要① (Copyleft)	
	LGPLタイプ		静的リンクでリバースエンジニアリングの許可②
	GPLタイプ		(二次的著作物とみなされる)隣接プログラムもソース開示要①

- BSDライセンス : Berkeley Software Distribution License
- MPL : Mozilla Public License
- LGPL : GNU Lesser General Public License
- GPL : GNU General Public License

例え、商用プログラムでも

4タイプに分類できる、OSSライセンスとOSSの例

Apacheライセンスの
OSSの利用が目立つ

タイプ	OSSライセンス	OSSの例
BSD系	BSD License	PosegreSQL, dom4j, OpenSSH, など
	OpenSSL License	mod_ssl, OpenSSL, など
	Apache License 2.0 (2004年ごろまでなら、Apache Software License, version 1.1 の可能性あり)	Apache HTTP Server, Tomcat, Axis, Commons, Jakarta Velocity, XML Xerces, Struts, Spring, Ajax Libs, ant, log4j, など
	Cryptix General License	Cryptix (GPL化を拒否している点に注意)
	Info-ZIP License	Info-ZIP
	zlib License	TinyXML, など
	MIT License	PuTTY, など
	その他多数	
MPL系	Eclipse Public License (EPL)	Eclipse, など
	Common Public License Version 1.0 (CPL)	SyncML, など
	その他多数	
LGPL系	LGPL2.1	glibc, JBoss4.2.2, OpenOffice.org, など
GPL系	GPLv2	MySQL(商用ライセンスとのデュアルライセンス, FLOSS ライセンス除外規定あり), Linux カーネル, gcc(スタートアップライブラリlibstdc++.so, libgcc_s.soには例外記述あり), Samba3.0.x, Pukiwiki1.4.7, PDFCreator, など
	GPLv3	Samba3.2.x, tcIPAMなど
	Affero GPL(AGPL)v1	affero
	その他いくつか	

BSD以外のタイプ:再頒布したプログラムのソース開示が必須の理由

<http://sourceforge.jp/projects/opensource/wiki/licenses>

● EPL(MPLタイプ) : Eclipse Public License

- 条件をすべて満たす限りにおいて、オブジェクトコード形式のプログラムを独自のライセンス契約に基づいて頒布可

a) 本契約書の条項に従い、しかも b) そのライセンス契約が i) …

iv) プログラムのソースコードを…入手できることを謳っており…妥当な入手方法をライセンシーに知らせていること。

● LGPL

1. (そのまま再頒布の条件) 2.(改変再頒布の条件) 3.(GPLにもできる)

4. …オブジェクトコードないし実行形式で複製または頒布することができる。ただし、…**ソースコードを添付し**、…

● GPL

1. (そのまま再頒布の条件) 2.(改変再頒布の条件)

3. …オブジェクトコードないし実行形式で複製または頒布することができる。その場合あなたは以下のうち**どれか一つを実施**しなければならない:

a) ソースを添付 **b) ソース提供する旨の書面**(3年は有効な) **c) …**

OSSで紛争を起こした事例の多くは、自社開発のつもり

自社の製品として提供する場合、大別すれば2つのケースが考えられます。

1) 自社が一からすべて新たに開発した(著作権者は自社のみ)

2) 他者のOSSを改良、あるいは取り込んで開発した

(他者が著作権を持つ部分が明確に存在する)

実際に企業がOSSのライセンスに関連してコミュニティと紛争を起こした事例は、ほとんどが前者のケース



OSSライセンスに関するトラブル例

ある企業A社が、自社ブランドの製品としてハードウェア製品を販売した。しかし実際の開発は下請けのB社が行っており、ファームウェアの一部としてGPLが適用されたプログラムが使われていた。A社はこの事実をまったく把握しておらず、ユーザからの問い合わせ(ソースコード開示の要求など)に適切に対応できなかった。

対応を誤る背景に、IPコンプライアンスの欠如

理由はどうであれ、他人の著作物(プログラム)を私する行為は許されません。

納期遵守、工数削減のためOSSをこっそり利用。

費用削減のため利用しているのだから
ライセンス遵守してられない

ハードウェアに組み込まれてしまえば、
OSSを使っていると言わなければ、分からないだろう

使えるんだから勝手に使っているんでしょ？

ライセンスを知らずに良かれと思ってやっているの
で悪くない

そもそもプログラムの「利用」の際のライセンス

- 「**利用**」(exploit)とは、複製や公衆送信等著作権等の支分権に基づく行為を指す。
- 「**使用**」(use)とは、著作物を見る, 聞く等のような単なる著作物等の享受を指す。
- 「平成10年2月 文化庁 著作権審議会マルチメディア小委員会 ワーキング・グループ中間まとめ」での定義http://www.cric.or.jp/houkoku/h10_2/h10_2_main.html

		使用	利用 (著作権者の権利)			
著作物		-	複製権	翻訳権	公衆送信権 / 頒布権	など
権利に 対応す る行為 (厳密 では ない)	書籍	本を読む	出版、複写	翻訳		
	音楽	聞く、鼻歌を歌う	CDを作製	編曲する	TV放送する	
	ソフトウェア	バイナリを実行	ソースの複製	改造する	再頒布する	
	商用ソフトウェア/ シェアウェア/フリーウェア	使用許諾書	一般的にはソース非開示にして禁止			
	オープンソースソフトウェア	自由	利用許諾書			

BSDタイプ:ソース開示は必須ではないですが条件があります

<http://sourceforge.jp/projects/opensource/wiki/licenses>

● BSDライセンス

- ソースコード形式かバイナリ形式か、変更するかしないかを問わず、以下の条件を満たす限り、再頒布および使用が許可。
- バイナリ形式で再頒布する場合、付属のドキュメント等の資料に、上記の著作権表示、本条件一覧、および下記免責条項を含めること。

● PHPライセンス

- 以下の条件が・・・バイナリ形式での再頒布および使用を許可
 - 2. バイナリ形式で再頒布する場合は、上記の著作権表示、本条件項目、および下記の免責条項を、・・・転載
 - 6. いかなる形式で再頒布する場合も、次の文言を表示しなければなりません。
"This product includes PHP, freely available from <<http://www.php.net/>>".

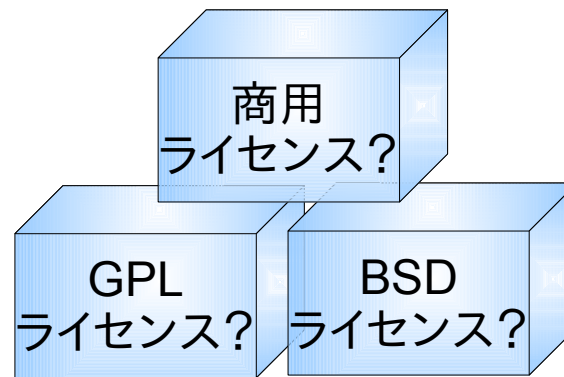
● Apache License 2.0

- ソース形式であれオブジェクト形式であれ、・・・条件をすべて満たす限り・・・コピーを複製したり頒布したりすることができます。
 - 1. ...本ライセンスのコピーも渡すこと 2. ...変更の...告知
 - 3. ソース形式の...場合、...、 4. NOTICEあれば挿入

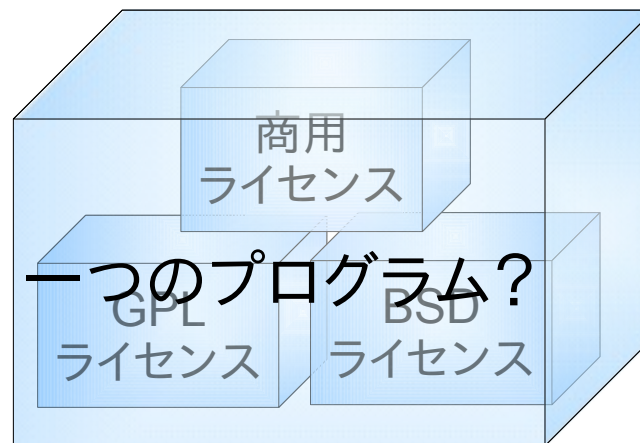
Apacheライセンスの利用は多いが、著作権表示が記載されている、このNOTICEファイルを忘れることが多い。

ライセンスの確認ステップ

1. 各モジュールのライセンスが何か確認し、そのライセンスを遵守しましょう

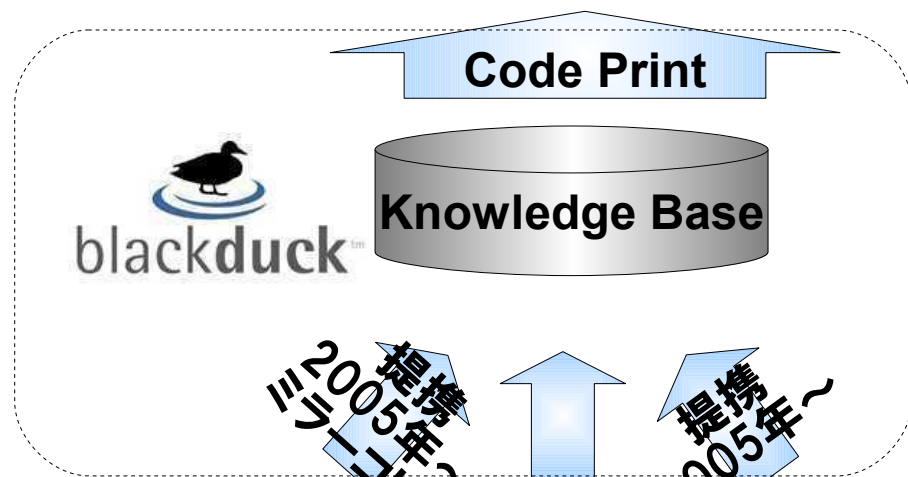
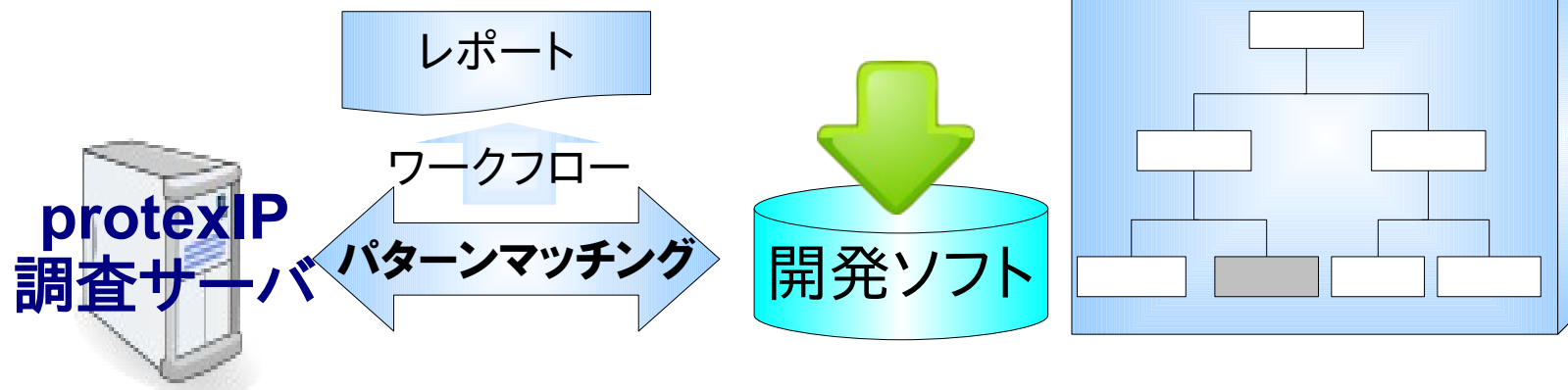


2. モジュール間の結合度から、1つのプログラム(結合著作物)と見えますか？
見えるならば、お互いのライセンスを遵守する必要があります



1.何を使っているか分からない/問題無いことを確認したい →protexIPがモジュール毎に疑わしいコードを検出します

- 自社開発ソフト中の思わぬOSSコード混入を出荷前に検出し、意図しない自社コード開示義務や風評リスクを未然に抑止します。



お手元のリーフレット、Webサイト
<http://www.nec.co.jp/oss/protexip/>
を参照願います。

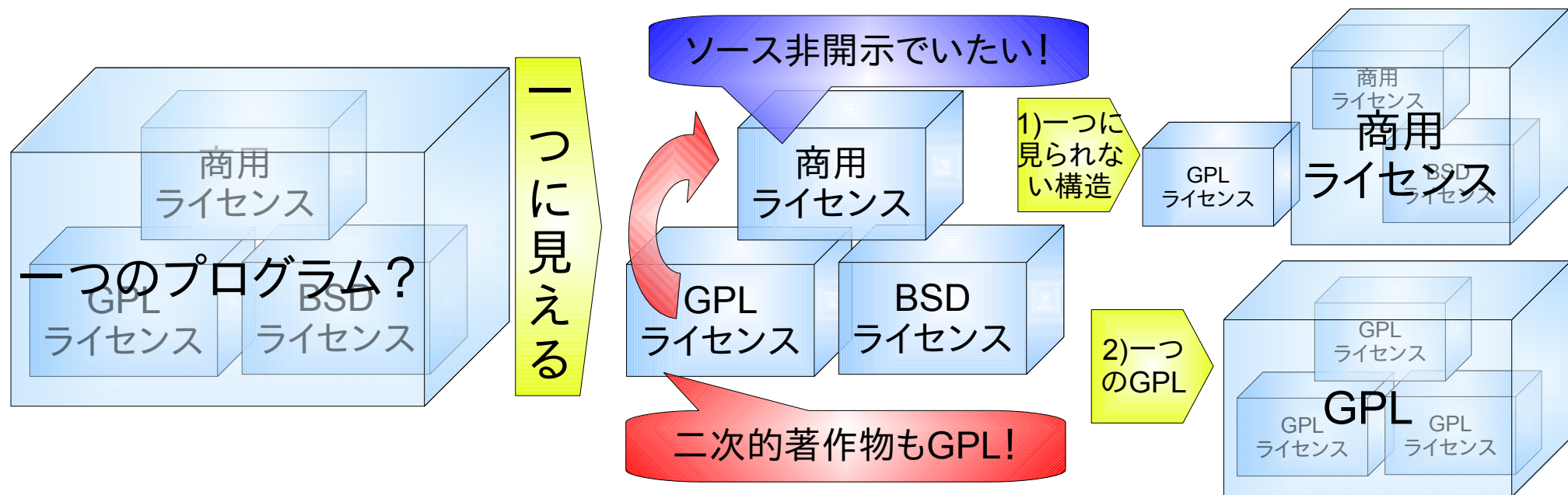


2. 結合著作物

- 音楽CDの場合:「それぞれの許可」



- プログラムの場合:「それぞれの許可」=「それぞれのライセンス遵守」



「ソフトウェアライセンスに関わるプログラム開発ガイド」の 11のチェックポイント

本日は、簡単に概要だけ
ご紹介します。

- Q1. その社製プログラム、すべて自社の著作物ですか？
- Q2. 商用プログラムを同梱している場合、必要な手続きはお済みですか？
- Q3. 他人の著作物を使用していないことを確認するためコード検査をしていますか？
- Q4. OSSの「使用」、つまり、一部ソース流用も含め、OSSを一切同梱していないですか？
- Q5. 単なる同梱でもOSSの「利用」です。ライセンスを遵守していますか？
- Q6. BSDタイプのOSSライセンスでも許諾要件があります。要件を満たしていますか？
- Q7. GPL/LGPL/MPLタイプのOSSはソース開示していますか？
- Q8. LGPL OSSを静的リンクしていたら、リバースエンジニアリングを許可していますか？
- Q9. GPLタイプのOSSの機能を利用したプログラムのソースを開示していますか？
- Q10. 遵守しやすいように、**ライセンス毎に分けたプログラム構造、物件管理**をしていますか？
- Q11. 利用する**OSSに還元**していますか？

Q9.までは必須です。Q10,Q11はOKならば、よりベターです。

Q11. 利用するOSSに還元していますか？

- ✦ 利用者が還元しなければ、利用するOSSの存続が危ぶまれます。OSSのエコシステムに積極的に参加して、共にサイクルを回す努力をしましょう。

還元例

- 開発コミュニティに開発者の一人として参加する
- 見つけたバグ修正などのパッチを開発コミュニティに提供
- ユーザ観点での評価結果・コメントをユーザ会で情報交換
- 該OSSのサポートを提供
- 該OSSを明示的に補完する製品を提供
- ユーザコミュニティに参加し、普及・促進に努める
- 寄付
- サーバマシンなどの寄贈
- その他

NECの還元・貢献例 - パッチ提供

linux/Documentation/ja JP/HOWTO ▼ PDF

v2.6.23

NOTE:

This is a version of Documentation/HOWTO translated into Japanese.
This document is maintained by Tsugikazu Shibata <tshibata@ab.jp.nec.com>
and the JF Project team <www.linux.or.jp/JF>.
If you find any difference between this document and the original file
or a problem with the translation,
please contact the maintainer of this file or JF project.

Please also note that the purpose of this file is to be easier to read
for non English (read: Japanese) speakers and is not intended as a
fork. So if you have any comments or updates for this file, please try
to update the original English file first.

Last Updated: 2007/07/18

これは
linux-2.6.22/Documentation/HOWTO
の和訳です。

翻訳団体: JF プロジェクト <<http://www.linux.or.jp/JF/>>

翻訳日: 2007/07/16

翻訳者: tsugikazu Shibata <tshibata at ab dot jp dot nec dot com>

校正者: 松倉さん <nbh--mats at nifty dot com>

小林 雅典さん (Masanori Kobayasi) <zap03216 at nifty dot ne dot jp>

武井伸光さん <takei at webmasters dot gr dot jp>

かねこさん (Seiji Kaneko) <skaneko at a2 dot mbn dot or dot jp>

野口さん (Kenji Noguchi) <tokyo246 at gmail dot com>

河内さん (Takavoshi Kochi) <t-kochi at bq dot ip dot nec dot com>

岩本さん (iwamoto) <iwamoto.kn at ncsc dot nec dot co dot jp>

Linux カーネル開発のやり方

linux/fs/jffs2/acl.h ▼ PDF

v2.6.23

```
/*
 * JFFS2 -- Journalling Flash File System, Version 2.
 *
 * Copyright © 2006 NEC Corporation
 *
 * Created by KaiGai Kohei <kaigai@ak.jp.nec.com>
 *
 * For licensing information, see the file 'LICENCE'
 */
```

linux/arch/i386/kernel/io_apic.c ▼ PDF

v2.6.23

```
/*
 * Intel IO-APIC support for multi-Pentium hosts.
 *
 * Copyright (C) 1997, 1998, 1999, 2000 Ingo Molnar, Hajnalka Szabolcs
 *
 * Many thanks to Stig Venaas for trying out countless experimental
 * patches and reporting/debugging problems patiently!
 *
 * (c) 1999, Multiple IO-APIC support, developed by
 * Ken-ichi Yaku <yaku@css1.kbnes.nec.co.jp> and
 * Hidemi Kishimoto <kisimoto@css1.kbnes.nec.co.jp>,
 * further tested and cleaned up by Zach Brown <zab@redhat.com>
 * and Ingo Molnar <mingo@redhat.com>
```

NECの還元・貢献例 - 寄付・寄贈


FSF FREE SOFTWARE FOUNDATION

Donations → Corporate Patrons


Current Patrons

Corporate patrons affiliate themselves with the FSF and support the FSF. The FSF does not endorse the activities of its patrons, but the organization can support the FSF and become a corporate patron. spatrons@fsf.org


Patrons at \$50,000 and above



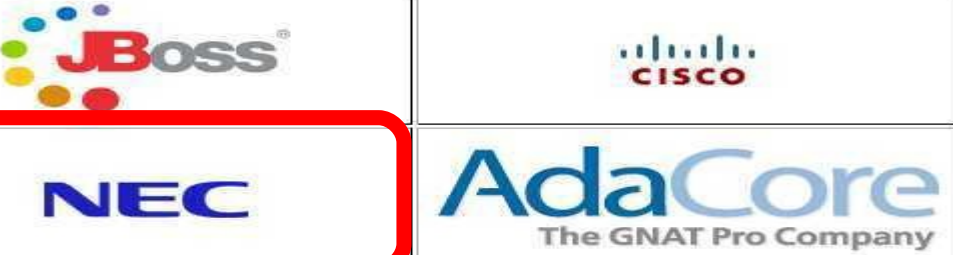
Patrons at \$25,000 and above



Patrons at \$10,000 and above



Patrons:



NEC

THE LINUX FOUNDATION

About | Linux Standard Base | Workgroups | Linux Protection | Collaboration Forum | Developer Services

Join
Members
Staff
Board
FAQ
Bylaws
Jobs
Contact Us
Publications

Members

Members within each category are listed alphabetically. For more information about membership, please visit our membership information page.

Platinum Members



NEC

Linuxの創始者であるLinus Torvalds氏の仕事を後援

日本Linux協会

寄付・スポンサー

Linux.jcの各サービス群の運営にあたり、以下のスポンサーの方々から機材やネットワーク回線をご提供いただいております。この音頭:



日本電気株式会社 様

Express5800/120LC-R

用途: 以下の各サービスを提供するホストマシン

- ・LA放送部 公開サーバ
- ・日経Linux情報、JL Project、JML Project 各カテゴリーのコンテンツ編集用 OVS サーバ



自社に展開するためには

●ボトムアップ・アプローチ

- 集合教育
- 部門全員向けWeb教育
- OSS利用製品の調査
- OSSライセンス遵守状況を調査、etc.

●トップダウン・アプローチ

- 経営責任ある(訴訟やWeb上での非難でさえ困る)部門長に認識いただき、組織的に取り組む
 - IPコンプライアンス推進者のアサイン
 - 製品責任者への教育
 - IPコンプライアンス・クリア状況報告書でチェック
 - 問診票でのチェック

➡**コンサルティング・サービスで具体的にご相談ください。**

コンサルティングサービス

1. OSS活用におけるリスクに対して、部門の啓発から始める

→「OSS活用におけるリスクと対策」セミナー (1H)

- OSSとは「単に自由に使えるもの」ではなく、遵守すべきライセンスがあります。
- 海外ではライセンス違反の訴訟が増加しています 等

本日の内容相当を「テキストを用いて」で講演します

2. プログラム開発者向けに、OSSライセンスの解説と注意事項を学習させたい

→「ソフトウェアライセンスに関わるプログラム開発ガイド」のセミナー (2.5～3H)

- 著作物であるプログラムの「使用」と「利用」で分かれるライセンスの遵守
- ソース開示が必要なOSSライセンスとバイナリ配布可能なOSSライセンス 等

11のチェックポイントを詳細なOSSライセンス解説付きで講演します

3. 実際の製品について、具体的な相談をしたい

→OSSライセンス・コンサルティング:個別見積もり

- 納品する物件にOSSが含まれていた。どういった対応が必要か
- OEMで導入する製品にOSSが使われているが、OEM元の対応で大丈夫か等

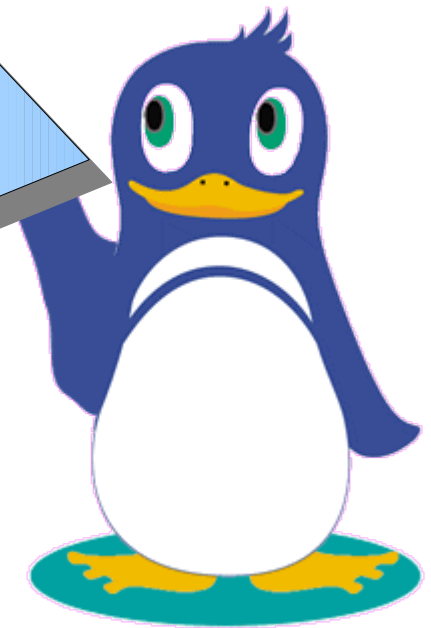
ex.11のチェックポイントの問診票を用いて、コンサルいたします

コンサル:11のチェックポイントの問診票

Q1		Q2		Q3		Q4			Q5					Q6								
a) 該社製プログラムは、		b) 商用プログラムを同梱している場合、ライセンス契約、ライセンス購入など、必要な手続きはお済みですか？		c) 他に、他人の著作物を使用していないことを確認するため、過去の開発物件も含めて、出荷前にコード検査をしていますか？		d) 一部ソース流用も含め、OSSを一切同梱していない場合、OSSの使用は下記のどの形態ですか？		d-12) 使用OSS		e) 単なる同梱ですか？		f) 利用OSS		g) 利用OSSライセンス			h) ドキュメントに「OSS名称(バージョン番号)」を記載していますか？		i) ドキュメントに「著作権表示」を記載していますか？		j) ドキュメントに「ライセンス条文」を記載していますか？	
選択	選択	選択	選択	選択	選択	OSS名	バージョン	選択	OSS名	バージョン	OSSライセンス名	バージョン	OSSライセンスタイプ	選択	選択	選択						
a-1) 商用製品またはオープンソース(OSS)の開発環境、ツールなどが含まれている	b-1) 商用プログラムは同梱していない	c-5) コード検査しているかどうか不明		d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-1) ソース改造せず、単なる同梱	ant	1.5.4	Apache Software License	1.1	BSDタイプ	h-1) バージョン番号を含め記載している	i-2) 記載していない	j-1) 記載している						
				d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-1) ソース改造せず、単なる同梱			Apache License	2.0	BSDタイプ	h-2) OSS名称のみ記載している	i-2) 記載していない	j-4) 記載していないOD-ROMなどに同梱						
				d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-1) ソース改造せず、単なる同梱	idom					h-3) 記載していない	i-2) 記載していない	j-4) 記載していないOD-ROMなどに同梱						
				OSS名を記入してください。 MySQL, JavaService等																		
				d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-2) ソース流用、または、ソース改造している	axis	1.2.1	Apache License	2.0	BSDタイプ	h-3) 記載していない	i-2) 記載していない	j-2) 記載していない						
				d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-1) ソース改造せず、単なる同梱	jaxb	2.0	COMMON DEVELOPMENT AND DISTRIBUTION LICENSE Version 1.0 and GNU General Public License Version 2	1.0 and 2		h-3) 記載していない	i-2) 記載していない	j-2) 記載していない						
d-4) 一部ソース流用も含め、OSSを同梱している				e-1) ソース改造せず、単なる同梱	saaj	1.3	COMMON DEVELOPMENT AND DISTRIBUTION LICENSE Version 1.0 and GNU General Public License Version 2	1.0 and 2		h-3) 記載していない	i-2) 記載していない	j-2) 記載していない										

最後に

**OSSへの還元が増えて、
OSSの発展に繋がるのであれば、
商用製品でOSSを正しく使う
ことも歓迎される(はず)**



展示ブースにて、protexIPの動態展示中！

是非、ご覧ください。

Empowered by Innovation

NEC

